



## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **07036982 A**

(43) Date of publication of application: 07 . 02 . 95

(51) Int. Cl

**G06F 17/60**

**G06F 15/02**

(21) Application number: **05156880**

(71) Applicant: **SONY CORP**

(22) Date of filing: 28 . 06 . 93

(72) Inventor: **HIRAYAMA TOMOHITO**

**(54) SCHEDULE DISPLAY DEVICE**

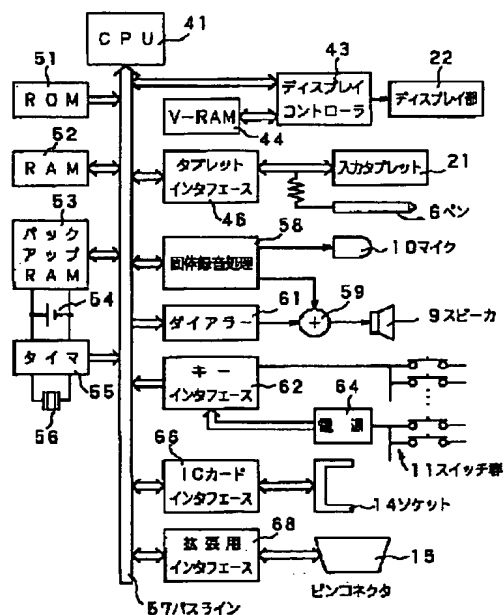
(57) Abstract:

information.

COPYRIGHT: (C)1995,JPO

**PURPOSE:** To eliminate the trouble of switching to the next display from schedule display and to prevent the oversight of a program by displaying start parts of succeeding processings on schedule display pictures of plural processing contents which do not overlap with respect to time.

CONSTITUTION: A RAM 52 and a backup RAM 53 where information of times or schedules of plural processing contents which do not overlap with respect to time are stored independently of one another, a display part 22, and a CPU 41 which controls each part are provided. The CPU 41 displays the start part of the schedule of the next week (for example, the first workday in the next week) on the display picture of the display part 22 where a week schedule out of information of processing contents stored in RAMs 52 and 53 is displayed. Thus, the frequency in page turning is reduced. Further, information of rest times or holidays is stored in RAMs 52 and 53, and the CPU 41 can display processing contents after the rest time or the holiday (for example, a workday after the holiday) based on this



(11)特許出願公開番号

特開平 7 - 3 6 9 8 2

(43) 公開日 平成7年(1995)2月7日

(51) Int. Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
G 0 6 F 17/60				
15/02	3 5 5 A	9364-5 L		
		8724-5 L	G 0 6 F 15/21	L

審査請求 未請求 請求項の数 4 O L (全 9 頁)

(21)出願番号 特願平5-156880

(22)出願日 平成5年(1993)6月28日

(71)出願人 000002185

ソニー株式会社

東京都品川区北品川6丁目7番35号

(72) 発明者 平山 智史

東京都品川区北品川6丁目7番35号 ソニー  
株式会社内

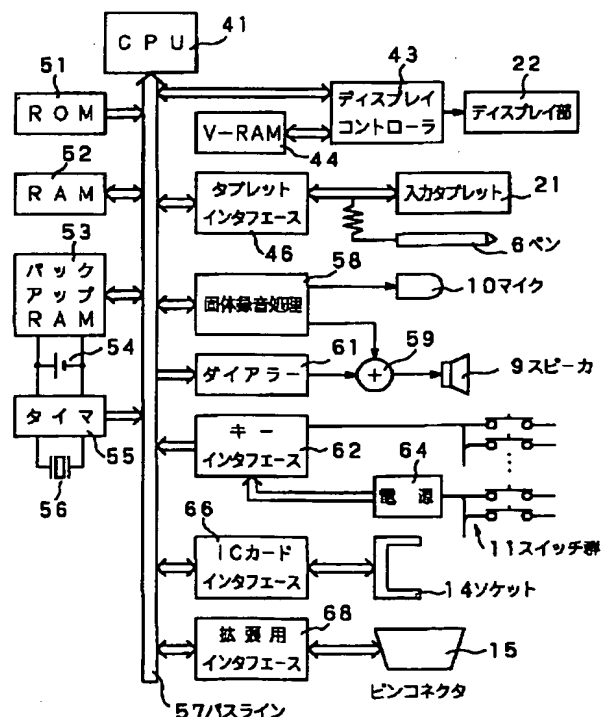
(74)代理人 弁理士 小池 晃 (外2名)

(54) 【発明の名称】 スケジュール表示装置

(57) 【要約】

【構成】 例えば1週間のうちの各日程等のスケジュールをそれぞれ独立に記憶するRAM52及びバックアップRAM53と、そのスケジュールを表示するディスプレイ部22と各部を制御するCPU41とを有するスケジュール表示装置であり、CPU41は、RAMに記憶された例えば1週間の週間スケジュールを表示したディスプレイ部22の表示画面に、この週のスケジュールに続く次の週の開始の部分（例えば最初の出勤日等）を表示させるようにしている。

【効果】 ページ捲りの回数を減らすことができると共に、スケジュール表示の次の内容表示への切り換えの煩わしさを無くすることができる。また、予定を見逃す虞れが少なくなる。



**【特許請求の範囲】**

**【請求項 1】** 複数の時間又は日程的に重複しない処理内容の時間又は日程の情報をそれぞれ独立に記憶する第 1 の記憶手段と、表示画面を有する表示手段とを備えたスケジュール表示装置において、

上記第 1 の記憶手段に記憶された上記処理内容の情報のうちの第 1 の処理内容を表示した上記表示画面に、上記第 1 の処理内容に重複しない当該第 1 の処理内容に続く第 2 の処理内容の開始の部分を表示することを特徴とする電子スケジュール表示装置。

**【請求項 2】** 休憩時間又は休日の情報を記憶する第 2 の記憶手段と、

上記休憩時間又は休日の長さを計算する計算手段と設け、

上記処理内容が上記休憩時間又は上記休日で区切られているときには、上記第 2 の記憶手段に記憶されている情報に基づいて上記計算手段で上記休憩時間又は休日の長さを計算し、当該休憩時間又は上記休日の長さに応じて上記第 2 の処理内容の開始の部分を表示することを特徴とする請求項 1 記載のスケジュール表示装置。

**【請求項 3】** 上記休憩時間又は上記休日の部分を省略又は簡略化して表示する表示方法に関する情報を記憶する第 3 の記憶手段を設け、

上記表示を行う際には、上記第 3 の記憶手段に記憶されている上記表示方法に関する情報に基づいて上記休憩時間又は上記休日の部分を省略又は簡略化して表示することを特徴とする請求項 2 記載のスケジュール表示装置。

**【請求項 4】** 休憩時間又は休日及び／又は上記第 2 の処理内容の開始部分の表示方法を指定する表示方法指定手段を設け、

上記休憩時間又は休日及び／又は上記第 2 の処理内容の開始部分の表示方法は使用者が指示可能とすることを特徴とする請求項 1 記載のスケジュール表示装置。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

**【産業上の利用分野】** 本発明は、例えば、1 日、1 週間や 1 ヶ月等のスケジュールを記憶すると共に表示可能なスケジュール表示装置に関するものである。

**【0002】**

**【従来の技術】** 従来の例えば 1 週間分のスケジュールを記憶して表示できるスケジュール表示装置においては、例えば、図 7 に示すように、液晶などからなる表示手段上に 1 週間すなわち 7 日分の予定が表示される。この図 7 の例の場合、例えば月曜日（11 日）、火曜日（12 日）、金曜日（15 日）、日曜日（17 日）にそれぞれ予定（スケジュール 1～スケジュール 4）が入っており、残りの水曜日（13 日）、木曜日（14 日）、土曜日（16 日）には予定が入っていないことを表している。

**【0003】**

**【発明が解決しようとする課題】** ところが、上述のようなスケジュール表示を行う方式では、例えば金曜日に仕事が終わった後に、次の週の月曜日（18 日）にどのような予定があるのかを確かめるためには、表示手段上の表示を次の週の表示に換えなければならない（すなわち手帳の感覚で言うところページを捲らなければならない）と言う煩わしさがある。また、例えば、上記次の週への表示の切り換えを忘れて、次の週の予定の確認を行わなかったような場合に、例えば月曜日に特別が用事があつて、いつもとは異なる服を用意しなければならなくても、従来のスケジュール表示だと気がつかない可能性がある。

**【0004】** このようなことから、例えば、スケジュール表示を 8 日表示（例えば月曜日から次の週の月曜日までの 8 日表示）とするスケジュール表示装置を考へることも可能である。しかし、この 8 日表示のスケジュール表示装置であっても、例えば、その 8 日表示の最終日

（月曜日から次の週の月曜日までの 8 日表示の場合は当該次の週の月曜日）が休日であるような場合には、その翌日（火曜日）の予定の表示がなされないことになるので、上述同様の問題が生ずる。

**【0005】** そこで、本発明は、上述したようなことに鑑み、スケジュール表示の次週の表示への切り換えの煩わしさを無くし、予定を見逃す虞れを少なくすることを可能とするスケジュール表示装置の提供を目的とするものである。

**【0006】**

**【課題を解決するための手段】** 本発明のスケジュール表示装置は、上述の目的を達成するために提案されたものであり、複数の時間又は日程的に重複しない処理内容の時間又は日程の情報をそれぞれ独立に記憶する第 1 の記憶手段と、表示画面を有する表示手段と、各部を制御する制御手段とを備えたスケジュール表示装置であつて、上記第 1 の記憶手段に記憶された上記処理内容の情報のうちの第 1 の処理内容を表示した上記表示画面に、上記第 1 の処理内容に重複しない当該第 1 の処理内容に続く第 2 の処理内容の開始の部分を表示するようにしたものである。

**【0007】** また、本発明のスケジュール表示装置には、休憩時間又は休日の情報を記憶する第 2 の記憶手段と、上記休憩時間又は休日の長さを計算する計算手段とをも設け、上記処理内容が上記休憩時間又は上記休日で区切られているときには、上記第 2 の記憶手段に記憶されている情報に基づいて上記計算手段で上記休憩時間又は休日の長さを計算し、当該休憩時間又は上記休日の長さに応じて上記第 2 の処理内容の開始の部分を表示するようにすることもできる。

**【0008】** さらに、本発明装置には、上記休憩時間又は上記休日の部分を省略又は簡略化して表示する表示方法に関する情報を記憶する第 3 の記憶手段を設け、上記

表示を行う際には、上記第3の記憶手段に記憶されている上記表示方法に関する情報に基づいて上記休憩時間又は上記休日の部分を省略又は簡略化して表示することもできる。

【0009】またさらに、本発明装置には、上記休憩時間又は上記休日及び／又は上記第2の処理内容の開始部分の表示方法を指定する表示方法指定手段を設け、上記休憩時間又は上記休日及び／又は上記第2の処理内容の開始部分の表示方法は使用者が指示可能となっている。

【0010】

【作用】本発明のスケジュール表示装置によれば、表示手段に第1の処理内容が表示されているときに、次の連続する処理内容である第2の処理内容の開始（冒頭）の予定の一部を重複して表示することで、ページ捲りの回数を減らせるようにしている。

【0011】また、記憶手段に記憶してある休憩時間若しくは休日の予定の情報を元に、休憩時間若しくは休日後の処理内容（例えば休日後の場合は出勤日等）までが表示手段上に同時に表示されるように表示状態をダイナミックに変えるようにしている。

【0012】

【実施例】以下、本発明のスケジュール表示装置の実施例を図面を参照しながら説明する。

【0013】本発明実施例のスケジュール表示装置の一構成例を図1に示す。

【0014】この図1において、本実施例のスケジュール表示装置は、複数の時間又は日程的に重複しない処理内容の時間又は日程の情報（すなわち1日のうちの時間割や1週間のうちの各日程等のスケジュール）をそれぞれ独立に記憶する第1の記憶手段としてのRAM52及びバックアップRAM53と、表示手段としてのディスプレイ部22と、各部を制御するCPU41とを備えたスケジュール表示装置であって、上記CPU41は、上記第1の記憶手段に記憶された上記処理内容の情報のうちの第1の処理内容（例えば1日の時間割の場合には午前中等、1週間の日程の場合は週間スケジュール等）を表示した上記ディスプレイ部22の表示画面に、上記第1の処理内容に重複しない当該第1の処理内容に続く第2の処理内容の開始の部分（例えば上記1日の時間割の場合には午後の最初の時間等、週間スケジュールの場合には次の週の最初の出勤日等）を表示させるようにしている。

【0015】また、本実施例のスケジュール表示装置の上記RAM52及びバックアップRAM53は、第2の記憶手段として休憩時間又は休日の情報を記憶することも行い、さらに本実施例装置のCPU41は、上記休憩時間又は休日の長さを計算する計算手段としても動作する。ここで、上記処理内容が上記休憩時間又は上記休日

理内容の開始の部分を表示するようにしている。

【0016】また、本実施例装置の上記RAM52及びバックアップRAM53は、第3の記憶手段として上記休憩時間又は上記休日の部分を省略又は簡略化して表示する表示方法に関する情報をも記憶する。このとき、本実施例装置は、上記休憩時間又は上記休日の部分を省略又は簡略化して表示する。

【0017】またさらに、本実施例装置には、上記休憩時間又は上記休日及び／又は上記第2の処理内容の開始部分の表示方法を指定する表示方法指定手段として例えばタブレット21及びスタイラスペン6等を設け、使用者が例えばディスプレイ部22上に表示された上記休憩時間又は休日及び／又は上記第2の処理内容の開始部分の表示方法を指示する所定表示領域に対応するタブレット21上の領域を、スタイラスペン6で指示することにより指示可能となっている。

【0018】すなわち、より具体的に言い直せば、本実施例のスケジュール表示装置は、スケジュールの1ページ分の表示に、次のページの冒頭の予定の一部を重複して表示することで、ページ捲りの回数を減らせるようにしている。

【0019】また、登録してある休日予定データを元に、休日後の例えば出勤日までが1ページに表示されるように表示日数をダイナミックに変えるようにしている。

【0020】ここで、図1の構成の具体的説明に先立ち、図2以降の各図を用いて、本発明実施例のスケジュール表示装置の原理及び動作について述べる。

【0021】本実施例のスケジュール表示装置では、表示方法として以下の表示形態を可能としており、例えば、前記図7で示したように従来通りに1週間を7日表示にしたい時には、当該7日表示のモードを示す情報として後述するSET\_MODEを0に(SET\_MODE=0)する。また、図2に示すように1週間を固定長の8日表示にしたい時には当該固定長8日表示のモードを示す情報としてSET\_MODEを1に(SET\_MODE=1)、図4に示すように1週間を固定長の9日表示にしたい時には当該固定長9日表示のモードを示す情報としてSET\_MODEを2に(SET\_MODE=2)、図2又は図3に示すように1週間を8日以上の変長とし表示最終日が必ず例えば出勤日になるようにしたい時には当該変長表示のモードを示す情報としてSET\_MODEを-1に(SET\_MODE=-1)とすることにする。

【0022】なお、1週間を固定長9日表示にすると、週表示の開始日を日曜日にする時に便利である。

【0023】また、本実施例のスケジュール表示装置では、週間スケジュールの表示を何曜日から始めるかをコントロールするためのデータを保持するメモリ（例えばROM51）に後述するSETDAYとしてその旨のデータを保持している。すなわち、月曜日～日曜日の7日

を例えばそれぞれ0~6の数値で代表させることができ、この数値データを保持する。例えば、週間表示を日曜日から始めたい場合は、上記SETDAYは6である。

【0024】上述したような週間スケジュールの表示を行うため、本実施例のスケジュール表示装置は図5及び図6のフローチャートに示すような手順で動作する。

【0025】先ず、図5のフローチャートにおいて、ステップS1では、後述するカレンダータイマとしても動作するタイマ55による時刻情報から今日が何年何月何日かを知ら。ステップS2では今日を含んで上記ROM51のSETDAYに登録されている曜日から始まる週の初日を求め、これをRAM52又は53にB\_DATEとして記憶する。次のステップS3では、表示日数カウンタDATE\_CNTとしてABS(SET\_MODE)+7の値を記憶する。なお、ABS( )は、( )内の数値の絶対値を返す関数である。

【0026】ステップS4では日付メモリDATEとしてB\_DATEを記憶し、DATEの曜日はSETDAYの曜日とする。ステップS5ではDATEに入っている日付と曜日を表示し、ステップS6では、DATEの日付に相当する日の予定を表示する。ステップS7では、DATEの日付に相当する日が休日設定されていれば、休日マークを表示する。なお、ステップS6及びステップS7の処理を処理αとする。ステップS8では、DATE\_CNTとしてDATE\_CNT-1を記憶させる。

【0027】次のステップS9では、DATE\_CNTの値が0より小さいか(DATE\_CNT<0)否かの判断を行う。このステップS9でNoと判断した場合にはステップS10に進み、Yesと判断した場合にはステップS11に進む。ステップS10では、DATEの次の日を調べ、それをDATEに記憶させた後、ステップS5に戻る。

【0028】一方、ステップS9でYesと判断されてステップS11に進むと、このステップS11ではSET\_MODEは-1か否かの判断を行う。このステップS11でYesと判断すると、ステップS12に進み、Noと判断するとステップS20を介して図2のフローチャートのステップS12に進む。すなわち、当該ステップS11でSET\_MODEは-1と判断した場合(Yes)には、ステップS12以降の処理で、1週間に8日以上を休日日程に依存してダイナミック(可変長)な表示を行うようにする。

【0029】上記ステップS11でYesと判断した場合のステップS12では、DATEの日付に相当する日は休日設定されているか否かの判断を行う。このステップS12でYesと判断するとステップS10に進み、Noと判断するとステップS20を介して図6のフローチャートのステップS21に進む。

【0030】上記ステップS11又はステップS12でNoと判断されてステップS20を介して図6のステップS21に進むと、このステップS21では入力待ちとなり、当該ステップS21で入力となされるとステップS22に進む。

【0031】ステップS22では、その入力ページ送りの指示か否かの判断を行う。当該ステップS22でページ送りの指示でないと判断した場合(No)にはステップS23に進み、ページ送りの指示であると判断した場合(Yes)にはステップS26に進む。

【0032】上記ステップS22でYesと判断された場合のステップS26では、B\_DATEの次の週の同じ曜日の日を求め、B\_DATEに記憶し、次のステップS27で画面を消去した後、ステップS40を介して、図5のフローチャートのステップS3に戻る。

【0033】一方、上記ステップS22でNoと判断された場合のステップS23では、上記入力ページ戻しの指示か否かの判断を行う。当該ステップS23でページ戻しの指示でないと判断した場合(No)にはステップS24に進み、ページ戻しの指示であると判断した場合(Yes)にはステップS28に進む。

【0034】上記ステップS23でYesと判断された場合のステップS28では、B\_DATEの前の週の同じ曜日の日を求め、B\_DATEに記憶し、次のステップS29で画面を消去した後、ステップS40を介して、図5のフローチャートのステップS3に戻る。

【0035】一方、上記ステップS23でNoと判断された場合のステップS24では、上記入力日付入力の要求か否かの判断を行う。このステップS24で日付入力要求でないと判断した場合(No)はステップS25に進み、日付入力要求であると判断した場合(Yes)はステップS30に進む。

【0036】上記ステップS24でYesと判断された場合のステップS30では、日付の入力待ちとなる。当該ステップS30で日付の入力となされると、次のステップS31では、与えられた日付を含んでいて、SETDAYに登録されている曜日から始まる週の初日を求め、B\_DATEに記憶し、ステップS32に進む。当該ステップS32では、画面を消去した後、ステップS40を介して、図5のフローチャートのステップS3に戻る。

【0037】また、上記ステップS24でNoと判断された場合のステップS25では、上記入力終了要求か否かの判断を行う。このステップS25で上記入力終了要求でないと判断した場合(No)にはステップS21に戻り、上記入力終了要求であると判断した場合(Yes)には処理を終了する。

【0038】なお、上述したフローチャートでは明示していないが、個々の日付に対応したスケジュール内容と休日か否かをペアで表す表1に示すようなテーブルが必

要である。このテーブルは、フローチャートのステップ S 6 及びステップ S 7 の処理 α で参照される。

【0039】

【表 1】

11日	スケジュール1、出勤
.	.
.	.
.	.
18日	_____、休日
19日	スケジュール6、出勤

【0040】 上述したようなことから、本実施例のスケジュール表示装置においては、スケジュール表示の 1 ページの表示に、次のページの冒頭の予定の一部を重複して表示することで、ページ捲りの回数を減らすことができ、またページ捲りのためのボタン操作などの煩わしさが省かれることになる。したがって、ユーザインターフェースを向上させることができる。

【0041】 また、例えば、登録してある休日の予定データを元に、当該休日後の例えば出勤日までが 1 ページに表示されるように表示日数をダイナミックに変えるようにしているため、予定を見逃す虞れを少なくすることを可能としている。

【0042】 図 1 に戻って、以下、本実施例のスケジュール表示装置の構成を具体的に説明する。この図 1 のスイッチ群 11 には、電源 64 のオン/オフを行うための電源スイッチと、ディスプレイ部 22 の液晶ディスプレイ (LCD) の画面の輝度を調整する輝度調整スイッチと、ディスプレイ部 22 のバックライトの明るさを例えば段階的或いは無段階的に調整する明度調整スイッチと、例えばスピーカ 9 から出力される音の音量を例えば段階的或いは無段階的に調整する音量調整スイッチと、当該スケジュール表示装置の所定の動作を途中で停止させる (例えば放音中に音を停止させるなど) ときに操作される停止スイッチなどが含まれる。これらスイッチ群 11 は、キーインターフェース 62 を介してバスライン 57 と接続され、このバスライン 57 を介して CPU 41 と接続される。CPU 41 は、各スイッチのオン/オフや調整なども制御する。

【0043】 ソケット 14 には、例えばメモリ (IC) カードが装着され、さらに IC カードインターフェース 66 を介してバスライン 57 と接続される。CPU 41 は、IC カードインターフェース 66 を介して、ソケット 14 に装着された IC カードとの間でデータ、プログラムなどの授受を行う。また、28 ピンコネクタ 15

7 と接続される。

【0044】 CPU 41 は、バスライン 57 を介して各種の IC などと接続されている。ROM 51 は、装置全体のシステムプログラムその他、上述した週間スケジュール表示のコントロールデータ、例えばワードプロセッサ機能用のカナ漢字変換プログラム及びそのための辞書テーブル、さらに手書き入力に対する認識プログラム及びそのための辞書テーブル、さらに手書き入力に対する認識ペン及びそのための辞書テーブルなどが書き込まれている。ワーキング用 RAM 52 には、上述したスケジュールの情報や動作上必要なデータが随時記憶される。バックアップ用 RAM 53 には、バックアップ用の電池 54 が接続されており、装置本体の電源がオフされた場合においても、上記スケジュールの情報や必要なデータをバックアップするようになっている。タイマ IC 55 は、電池 54 に接続され、水晶振動子 56 からのクロックを計数して、その時点における年月日及び時刻のデータを出力している。ディスプレイコントローラ 43 やタブレットインターフェース (タブレットコントローラを含む) 46 も、バスライン 57 を介して CPU 41 に接続されている。

【0045】 固体録音処理回路 58 は、ソケット 14、28 ピンコネクタ 15 などからの入力や CPU 41 からの指令に対応して、予めメモリ等に録音してある音信号を出力して、加算器 59 に送る。この加算器 59 には、ダイアラー 61 からの音量調整信号も供給され、これにより音量の調整がなされる。当該加算器 59 からの音信号が図示を省略するアンプなどを介してスピーカ 9 に送られ、当該スピーカ 9 で放音される。また、この固体録音処理回路 58 には、マイクロホン 10 からの音信号も供給されるようになっており、このマイクロホン 10 からの音信号をメモリ等に録音することもできる。

【0046】 タブレット 21 は、X 軸方向に例えば 512 本の電極を有しており、Y 軸方向に 342 本の電極を有している。これにより、512×342 画素に対応する位置を検出することが可能となる。

【0047】 タブレットインターフェース 46 は、タブレット 21 及びペン 6 とバスライン 57 を介した CPU 41 とを接続する。また、このタブレットインターフェース 46 は、タブレットコントローラとしての機能をも有し、タブレット 21 の 342 本の電極の 1 本 1 本に所定のクロックに基づいて順次所定の電圧を印加すると共に、512 本の電極の 1 本 1 本に所定のクロックに基づいて順次所定の電圧を印加する。これにより、タブレット 21 は、X 軸及び Y 軸方向にスキャンされることになる。

【0048】 このとき、ペン 6 をタブレット 21 上の任意の位置に近づけると、タブレット 21 とペン 6 との間に所定の静電容量が形成される。そして、ペン 6 をタブレット 21 に押圧したとき、ペン 6 の選択のスイッチが

オンするので、ペン6とタブレット21上の電極との間に発生した電荷がタブレットインターフェース46によって検出される。すなわち、タブレットインターフェース46は、X軸方向とY軸方向の所定のクロックの発生タイミングを管理しているので、ペン6から供給された検出信号とクロックの発生タイミングとからタブレット21上のペン6による押圧位置を検出することができる。

【0049】タブレットインターフェース46は、このようにして検出したペン6による操作座標をCPU41に供給する。CPU41は、ペン6がタブレット21を押圧し、ペン6の先端のスイッチがオンした（ペンダウンした）位置と、タブレット21からペン6が離れ、当該ペン6の先端のスイッチがオフした（ペンアップした）位置を常に監視している。そして、ペンダウンで入力を受け付け、ペンアップで入力を確定する。

【0050】一方、CPU41は、ディスプレイコントローラ43を制御し、メモリ（V-RAM）44に表示すべき画像に対応するデータを書き込む。ディスプレイコントローラ43は、メモリ44からデータを読み出し、データに対応してディスプレイ部22を駆動する。ディスプレイ部22には、タブレット21に対応して水平方向に512本の電極を有し、垂直方向に342本の電極を有している。ディスプレイコントローラ43は、このディスプレイ部22の上記512本の電極に1本ずつ順次所定の電圧を印加すると共に、上記342本の電極に1本ずつ順次所定の電圧を印加する。これにより、ディスプレイ部22上の各画素がスキャンされ、当該ディスプレイ部22上に所定の画像が表示されるようになる。

【0051】このディスプレイ部22のLCD上に上記タブレット21が設けられている。このディスプレイ部22は、例えば、上下に設けられたガラス板と、その間に挿入された液晶デバイスとから構成されている。ディスプレイ部22の下方には、蛍光板（EL）が配置され、この蛍光板がバックライトとして光を発生すると、その光がディスプレイ部22の液晶デバイスを証明する。また、タブレット21は、透明な部材により形成されているため、液晶デバイス上に表示された画像を観察することができる。

【0052】なお、例えば、紙に日付（曜日）を印刷したカレンダーなどでは、当月分のカレンダー表示の他に、同じ用紙に翌月分のカレンダー（日付）を小さく印刷するも

のはある。しかし、スケジュールまで含めて重複表示を行うためには電子化が必要であるが、現在そのようなスケジュール表示装置は存在しない。

#### 【0053】

【発明の効果】上述したように、本発明のスケジュール表示装置においては、表示手段に第1の処理内容が表示されているときに、次の連続する処理内容である第2の処理内容の開始（冒頭）の予定の一部を重複して表示することで、ページ捲りの回数を減らすことができると共に、スケジュール表示の次の内容表示への切り換えの煩わしさを無くすることができる。

【0054】また、記憶手段に記憶してある休憩時間若しくは休日の予定の情報を元に、休憩時間若しくは休日後の処理内容（例えば休日後の場合は出勤日等）までが表示手段上に同時に表示されるように表示状態をダイナミックに変えるようにしているため、予定を見逃す虞れを少なくすることが可能となっている。

#### 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明実施例のスケジュール表示装置の概略構成を示すブロック回路図である。

【図2】本実施例におけるスケジュール表示として固定長8日表示の例を説明するための図である。

【図3】本実施例におけるスケジュール表示をダイナミック（可変長）に表示する例を説明するための図である。

【図4】本実施例におけるスケジュール表示として固定長9日表示の例を説明するための図である。

【図5】本実施例のスケジュール表示の動作を説明するためのフローチャートである。

【図6】本実施例のスケジュール表示の動作を説明するためのフローチャートのうちステップS20以降を示すフローチャートである。

【図7】従来のスケジュール表示の例を説明するための図である。

#### 【符号の説明】

6・・・スタイラスペン  
21・・・タブレット  
22・・・ディスプレイ部  
41・・・CPU  
51・・・ROM  
52・・・RAM  
53・・・バックアップRAM

【図2】

11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)	16日(土)	17日(日)	18日(月)
スケジュール-1	スケジュール-2			スケジュール-3	スケジュール-4		スケジュール-5

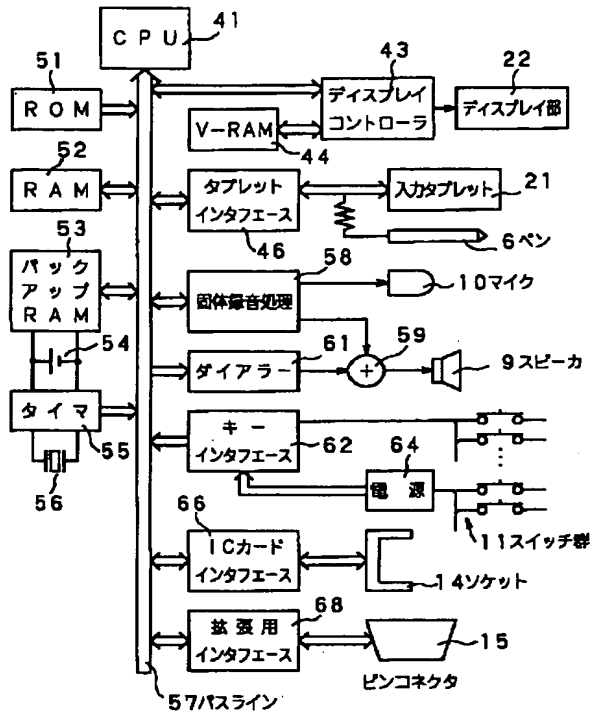
8日分

【図3】

11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)	16日(土)	17日(日)	18日(月)	19日(火)
スケジュール-1	スケジュール-2			スケジュール-3		スケジュール-4 (翌日)	スケジュール-5	

9日分

【図1】



【図4】

10日(日)	11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)	16日(土)	17日(日)	18日(月)
スケジュール1	スケジュール2			スケジュール3	スケジュール4	スケジュール5		

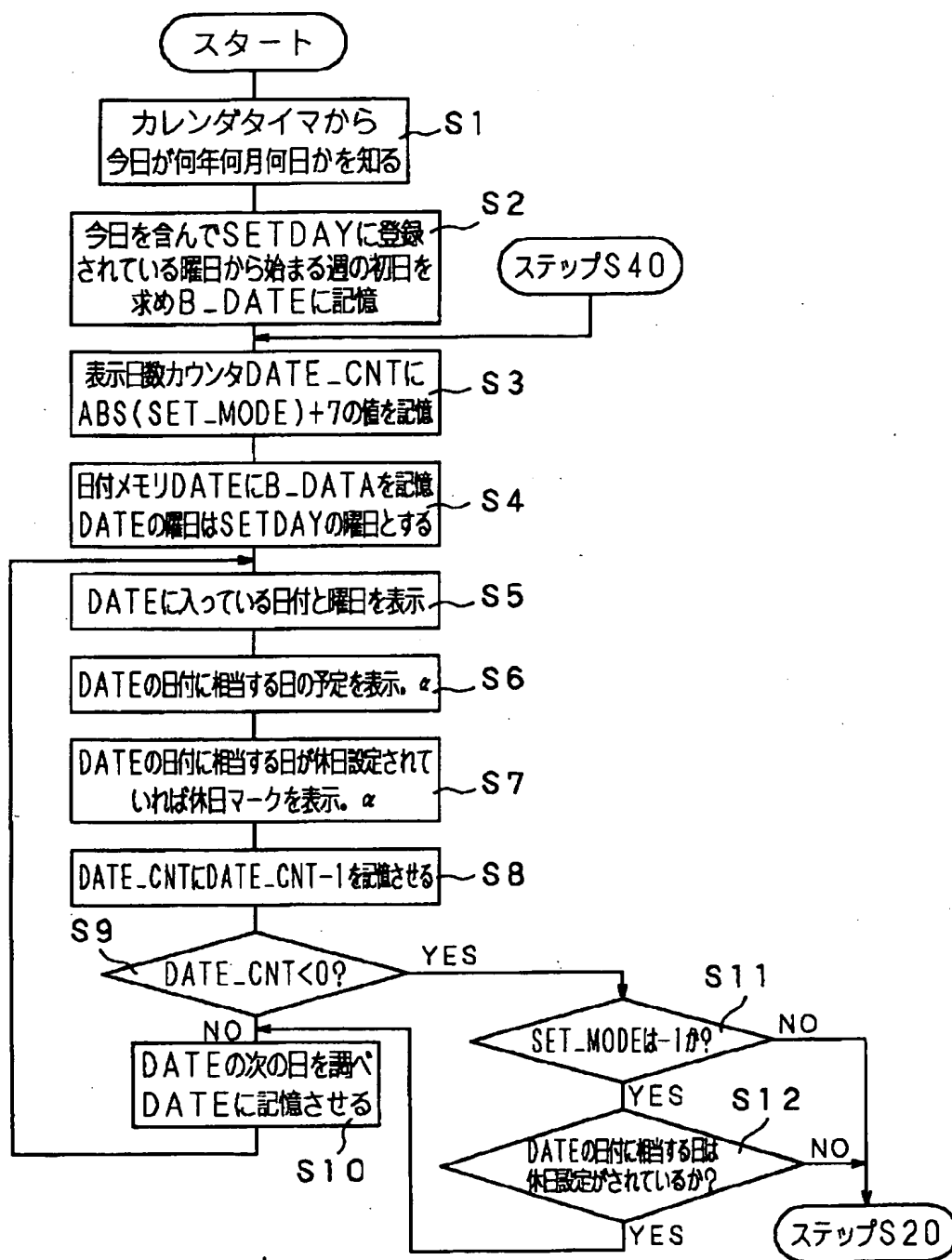
9日分

【図7】

11日(月)	12日(火)	13日(水)	14日(木)	15日(金)	16日(土)	17日(日)
スケジュール1	スケジュール2			スケジュール3		スケジュール4



【図 5】



【図6】

